

**2025 年 3 月期第 1 四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A**

日時：2024 年 8 月 1 日 木曜日 16:00～17:00

Q1. 25 年 3 月期通期の事業利益計画について

A1. 期初計画 480 億円の事業利益は達成させる。海外事業の豪州牛肉処理頭数の拡大、加工事業の構造改革効果、食肉事業の飼料価格改善や国産鶏肉の相場反転等、追い風の余地がある一方で、為替変動や輸入食肉の高騰等、不透明な外部環境から事業利益計画は据え置いている。

Q2. 加工事業本部の今期の計画について

A2. 商品ミックスの改善や低収益商品の見直しによる製造経費の削減等、構造改革の効果が発現した。また、4 月に公表した価格改定に加え、10 月にも一部商品で価格改定を実施する。期初計画から、利益計画の組み立ては変わるが、引き続き構造改革を推し進める。

Q3. 食肉事業本部の今期の計画について

A3. 飼料価格の高止まりや鶏肉相場安等、厳しい外部環境の中で減益となったが、輸入鶏肉の数量回復等もあり想定を上回った。2 Q 以降はフード会社によるブランド食肉の拡販や外部環境の改善で前期水準の実績は達成する。

Q4. 海外事業本部の今期の計画について

A4. 1Q は豪州の牛肉仕入れコストの安定や処理頭数の改善で堅調に推移した。豪州事業は順調なキャトルサイクルから、処理頭数の拡大が見えている。またトルコについても販売価格への転嫁が進み、好調に推移している。各エリアの状況を考えると、更なる上振れを期待したい。

Q5. ボールパーク事業の今期の計画について

A5. 今年はチーム状況の改善や来場者向けに実施している様々な企画の影響で主催試合における 1 試合あたりの平均来場者数が増加している。また飲食エリアの拡大や食を通じたイベントにより飲食収入も順調である。通期を通して、来場者の増加を図り収益拡大につなげる。

Q6. 今期の連結業績計画について

A6. その他収益・費用において、主に加工事業で固定資産の減損損失が 50 億円程度発生することを見込む。

Q7. (7 月 9 日発表) JA 全農との事業連携について

A7. 共創については、現在現場レベルで話し合いを進めている。今期の利益に繋がるものではないが、中長期での期待は大きい。特に処理場については老朽化している中で連携ができれば、アセットライトにつながり、事業基盤が強化できると考えている。

以上